

令和 7 年度 自己評価結果公表シート

幼保連携型認定こども園こもれび / 放課後児童クラブ Sola(空)

社会福祉法人いろどり

社会福祉法人いろどりが運営する幼保連携型認定こども園こもれび、及び放課後児童クラブ Sola(空)における、令和 7 年度の実績と自己評価の結果を公表します。私達は、法人理念「いろどり豊かな人生を、すべては子どもの未来のために」と、教育及び保育目標「しなやかでいろどり豊かな心を創る」を軸に、子ども達一人一人の育ちに寄り添う保育及び幼児教育に努めています。

施設名称	幼保連携型認定こども園こもれび(放課後児童クラブ Sola(空)を含む)
設置法人	社会福祉法人いろどり(理事長 坂本 肇)
評価対象年度	令和 7 年度(2025 年度)
公表日	令和 8 年(2026 年)6 月

I. 遊びと育ちの環境づくり

重点項目	令和 7 年度の実践と自己評価
園庭の環境づくり(つみきの森) 課題 子ども達が自ら関わりたくなる遊びの環境をつくること。	園庭を「完成された遊具を置く場」から「子ども達が自ら関わりたくなる場」へと捉え直し、令和 7 年度は乳児園庭と園庭東側のリニューアルに着手しました。木の幹・丸太・土の起伏といった「育っていく素材」を園庭に組みこむ取組(つみきの森プロジェクト)を進めています。影や高低差、季節の移ろいのある庭が、子ども達の主体性・探究心・身体の育ちを支えます。
こもれびもーしょん (MOTION)	子ども自身が「やってみたい」と感じて体を動かしたくなる環境づくりとして、こもれびモーションを取り入れました。決められた運動をさせるのではなく、自ら挑戦したくなる場を整えています。
遊びに没頭できる時間・生活の見直し	日々の生活を、子ども達が遊びに没頭できる時間の確保を軸に見直しました。急かされずにじっくりと遊び込む時間が、心の育ちを支えます。

2. 保育・教育の質の向上

重点項目	令和 7 年度の実践と自己評価
先生達の学び合い 課題 子どもへの関わりを、園全体で深めていくこと。	理念を行動の軸とするため、全職員で「なぜ・どこへ向かうのか」を分かち合う研修を重ねました。子ども主体の関わりを語り合う機会が増え、日々の保育に変化が現れ始めています。誰が関わっても同じ質が保たれる園を目指し、引き続き取り組みます。
行事の見直し 課題 「行事のための活動」に追われず、一人一人に寄り添う時間を大切にすること。	発表会などの行事を、「子ども達がやりたいことを表現する」ことを最優先にする企画へと見直しました。先生は完成度を細かく決めず、環境を整えて支える役割へと変わりつつあります。日々の積み重ねを大切に、「しなやかでいより豊かな心を創る」保育を育てています。

3. 一人一人への寄り添い

重点項目	令和 7 年度の取組と自己評価
特別な配慮を要する子どもへの個別支援	家庭との連携のもと、一人一人の育ちに寄り添う個別支援と、専門機関へのなめらかな引継ぎができるよう体制づくりを進めました。今後も、関係機関との連携を深めながら、丁寧に支えてまいります。

4. 放課後児童クラブ Sola(空)の取組

重点項目	令和 7 年度の取組と自己評価
安全・安心の環境づくり	認定こども園と場を共にする環境の中で、児童の安全を第一に、動線や過ごし方を工夫し、怪我やトラブルの未然防止に取り組みました。
児童が主役のイベント	児童自身が企画・運営に関わるイベントを取り入れ、子ども達の「やってみたい」を形にする機会を設けました。学童ならではの自由度を活かした活動を、これからも充実させていきます。
こもれびとの交流	園児と学童の児童が定期的に交流する機会を設け、園児が小学生への憧れと就学への安心をもてるよう努めました。就学に向けたなめらかな接続の一助として、次年度も続けます。

5. 総括 ― 令和 7 年度を振り返って

令和 7 年度は、園庭の環境づくり、行事の見直し、こもれびモーションなどを通じて、「子ども達が自ら育つ」保育を一步前へ進めた年でした。子ども達の育ちや、保護者との信頼に、確かな手応えが芽生え始めています。

子ども達に安定した質の高い保育を届けるため、先生達の学びと働きやすい環境づくりにも継続して取り組んでいます。次年度も、一人一人に丁寧に向き合い、家庭とともに「しなやかでいろどり豊かな心」を育ててまいります。